



花き生産情報第3号

平成29年6月20日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

換気や遮光をこまめに行うなど、ハウス内の温湿度管理を徹底しましょう。
病虫害の早期発見・早期防除に努めましょう。

夏秋ギク

1 生育状況

生育は、おおむね順調である。白さび病、灰色かび病、アブラムシ類等が散見される。

表1 生育状況（6月10日現在）

場所	年次	品種	定植月日	草丈 (cm)	葉数(枚)	備考
新郷村	本年	精の一世	4月21日	55.6	25.7	無摘心
	前年	精の一世	4月18日	63.3	28.2	無摘心
	平年	精の一世	4月17日	60.7	31.0	無摘心
平川市	本年	岩の白扇	4月25日	29.8	12.5	3本仕立て
	前年	岩の白扇	4月30日	42.3	13.9	2本仕立て
	一昨年	岩の白扇	5月2日	48.3	28.4	無摘心

(注) 新郷村の平年値：平成26年～28年の平均値
平川市の平年値：平成28年から仕立て方法の変更によりなし

2 今後の作業

(1) 芽かき

わき芽は、花芽ができて5～7日すると伸びてくるので、小さいうちにかき取る。

(2) ビーナイン処理（施設栽培のみ）

花首の伸長を抑えるため、発らい期～摘らい期にビーナイン顆粒水溶剤等を散布し、品質の向上に努める。

(3) 病虫害防除

多湿条件により、白さび病や灰色かび病が発生しやすくなるため、こまめに換気するとともに適期防除に努める。

高温乾燥条件により、アブラムシ類、ハモグリバエ類、ハダニ類、アザミウマ類等の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

秋ギク

1 今後の作業

(1) 定植

ア 10月出荷の作型は6月中に定植する。定植の2～3日前には、定植床に十分

かん水しておく。

イ 苗は、1～2cm程度発根したものを定植する。

ウ 定植後は、軽かん水して活着を早める。

(2) 定植後の管理

ア 日中は25℃以上にならないように管理する。

イ 発らい前まで十分にかん水を行う。

ウ 摘心を実施する場合は、苗が活着してから行う。

(3) 病虫害防除

夏秋ギクに準ずる。

トルコギキョウ

1 生育状況

生育は全般的に順調である。ハモグリバエ類の発生が散見される。

表2 生育状況（6月10日現在）

場所	年次	品種	定植月日	草丈 (cm)	節数 (節)
青森市	本年	はるか	4月13日	10.9	8.2
	前年	はるか	4月1日	11.6	8.3
	一昨年	はるか	4月11日	10.5	8.1
田舎館村	本年	セブピンク	4月8日	17.6	9.1
	前年	セブピンク	4月26日	14.4	7.5
	平年	セブピンク	4月21日	15.5	7.5

(注) 青森市の平年値：平成27年から品種の変更によりなし

田舎館村の平年値：平成25～28年の平均値

2 今後の作業

(1) かん水

発らいまでは十分にかん水し、発らい後はしおれない程度にかん水を減らし軟弱徒長を防ぐ。

(2) 温度管理

換気や循環扇、寒冷紗等を活用し、日中25℃以下、夜間15℃を目標に管理する。

(3) 側枝等の整理

不要な側枝は早めに摘み取る。また、頂花らい（1番花）は、早めに除去し、上位節から発生する分枝の伸長を促す。

(4) 病虫害防除等

温度や湿度の上昇により、灰色かび病やアザミウマ類が多発するので、予防散布を実施するとともに早期発見・早期防除に努める。

チップバーンの発生しやすい品種では、必要に応じてカルシウム剤を葉面散布する。

(5) 短日処理

9～11月出し作型では短茎で前進開花しやすいが、これを避ける方法として「短日処理」が有効である。処理方法は、定植から30日程度、夕方5時から翌朝8時まで100%遮光資材でトンネル被覆し、9時間日長とする。

花き生産指導情報第4号は平成29年7月20日発行の予定です。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報 (http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報検索システム (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5080
直通	017-734-9485
